

令和4年度枚方市立中宮中学校 学校評価

1. 学校教育目標

<p>すべての生徒に、自分と社会を結びつけて考え、行動できる力を育成する</p> <p>《育む3つの力》『考える力』…主体的に物事をとらえ、多角的、多面的に考えることができる力 『言語力』…相手の考えを読みとり、聞きとる力・自分の考えを書き、話して伝える力 『コミュニケーション力』…人とつながり、協働して答えを導き出す力</p> <p>・違いを認め合い、いじめや差別を許さない豊かな人権感覚 ・ICTを正しく活用し、必要な情報を手に入れ、発信する力</p> <p>《中宮中学校区めざす子ども像》『自ら考え行動し、多様性のある社会の中で、共生できる子ども』</p>
--

2. 学校経営方針

<p>●教育の目的、地域の学校の役割を達成し、生徒・保護者から信頼される学校を実現する。</p> <p>1. 組織的な学校運営の継続・発展 2. 自分と社会を結び付けて考え、行動できる力の育成 3. 学習指導の充実 4. 生徒指導の充実 5. 小中一貫教育の推進、充実</p>

3. 本年度の取組内容及び自己評価

基本方針	項目	・本年度の重点目標	○具体的な取組内容 (◆活動指標・成果指標を含める)	□取組内容の自己評価 ◆生徒調査% ◇保護者調査%()は昨年度%
確かな学力と自立の力を育む教育の充実	・教育課程 ・学習指導 ・キャリア教育	(1) 学力向上 (学ぶ力の保障)	<p>①対話的なグループ学習や、ICTを有効に活用して、生徒が主体的に学びに参加し、深く思考し学ぶ授業を行い、生徒の「考える力」「言語力」「コミュニケーション力」を育てる。</p> <p>②効果的な単元計画提示と学習評価の充実により、生徒の「学習意欲」と「学ぶ力」を向上させる。</p> <p>③授業と関連付けた家庭学習課題、トライジャパニーズやICT教材活用で、自学学習力を育成する。</p> <p>④小テスト、補充学習、ICT活用などで基礎学力の定着を図り、低学力の生徒の学力を保障する。</p> <p>⑤学力に課題がある生徒、学習障害がある生徒がいることを意識した授業のユニバーサルデザイン化と困り感に寄り添った合理的支援により、すべての生徒の学びを保障する。</p>	<p>①グループ学習やICTを活用した授業に取組み、「考える力」や「言語力」、「コミュニケーション力」の育成をすすめました。</p> <p>②引き続き、単元計画の教室掲示に取組んでいますが、教科によってその活用の仕方に違いがあり、生徒の意識にも「差」があります。学習評価の方法の改善、工夫により、生徒の「学び」に対する意欲を高めることが大きな課題です。</p> <p>③家庭学習習慣の定着は、2極化がすすむ状況から抜け出せていません。</p> <p>④学習につまずきがある生徒がいることを意識して、小テストや単元末テスト、基礎基本の定着に重点を置いた教科指導に取組んでいます。</p> <p>⑤教室環境のユニバーサルデザインは定着してきましたが、板書や授業展開については、まだ課題があります。タブレットなどICTを活用した支援スキルの習得など、授業展開や指導のユニバーサルデザインを進める必要があります。</p>
		(2) 社会の中で他者と支え合い自立する力の育成	<p>①総合的な学習を軸としたカリキュラム・マネジメントと、キャリアパスポートの活用などキャリア教育の充実により、「自分と社会を結び付けて考え、行動することができる生徒」を育成する。</p> <p>②一人ひとりの生き方を考える進路学習と、生徒が主体的な進路選択にむけた適切なアドバイスと支援により、すべての生徒の希望する進路を実現させる。</p> <p>◆学力・学習状況に関する諸調査の結果の改善 ◆授業力アンケートや学校教育自己診断などの生徒アンケート肯定的回答評価向上</p>	<p>①コロナ禍が続く中、職業体験はできませんでしたが、職業講話(1年)、コリアタウンフィールドワーク(2年)、総合文化発表会(3年)を実施できました。また、「Learning by Giving」など新たな取組みも実施し、めざす力の育成を進めています。キャリアパスポートに加えて、各行事の振り返りや学期末の「私の通知票」に取組むなど、「なりたい自分」を意識する場面を設け、自己肯定感、自己育成力を育てています。</p> <p>②各学年の発達段階に応じた進路学習を進めています。3年生では進路決定に向けた教育相談と懇談を通じて、一人ひとりの進路選択、実現を支援しています。不登校傾向の生徒など進路保障が困難な生徒への支援の充実が課題です。</p> <p>◆府チャレンジテスト 3年生の結果(府平均比)はほぼ変化なし ◆授業はわかりやすい 88.9(R3 92.1) ◆話し合う活動を通じて考えを深めたり広げたりできている。 92.2(90.6) ◆地域や社会をよくするために、何をしたら良いか考えることがある 62.1(全国 40.8) ◆将来の夢をもち実現のために取組もうと思っていることがある 78.4(全国 67.2)</p>
豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	・支援教育 ・人権教育 ・生徒指導 ・保健管理	(3) 支援教育 ・人権教育の充実	<p>①生徒の状況を踏まえ、生徒、保護者の思いに寄り添い個に応じた支援教育により、すべての生徒に社会での「自立」に必要な力を育む。</p> <p>②同和教育、在日韓国・朝鮮人教育、多文化共生教育、障害理解教育、ジェンダー平等教育など社会にある人権課題や戦争への正しい理解を深め、平等・共生社会と平和実現への実践力を育む。</p> <p>③いじめなど身近な人権侵害を見逃さず、自分たちの力で解決する取り組みと、学年・学級での「ともに学びともに育つ」教育を推進し、生徒に豊かな人権意識を育み、行動力を育成する。</p> <p>④子どもを「権利の主体」として尊重し、授業や生徒指導などの日々の教育活動の在り方について、検証し、生徒が自他の人権の大切さを実感できる教育を実現する。</p>	<p>①生徒の状況を把握し、支援学級での内容、形態の変更やテストでの合理的配慮など個に応じた支援をすすめています。来年度に向けた「学びの場」の見直しも、生徒と保護者の思いに寄り添って進めています。</p> <p>②様々な人権課題について正しい理解を深め、実践力を育むため、出会いから学ぶ講演会などの学習の機会を設けました。外国にルーツがある生徒の「多文化のつどい」では、友だちとの交流の取組みも始めています。</p> <p>・在日朝鮮人教育「チマチョゴリ」劇団タルオルム公演 6/9 ・性多様性について「LGBTQ講演会」井上鈴佳さん 11/11</p> <p>③学級委員による学級づくり、班長会議での班づくり、毎日の終礼での生活振り返りなど日常的な取組みを土台に、あらゆる活動を通じて「ともに学びともに育つ」をすすめています。</p> <p>④教職員の人権教育研修や「人権意識チェック」で教職員が互いに自分たちの日常的な指導のあり方を見直す機会を設け、生徒指導・支援の改善を進めています。</p>
		(4) 生徒指導の充実	<p>①報・連・相を徹底して組織的な生徒指導を実践し、生徒が安心して学べる学校を実現する。</p> <p>②学級、学年集団づくりを生徒指導の土台に据えた「開発的生徒指導」により、自治・自律力のある生徒を育てる。</p> <p>③薬物乱用防止教育やメディアリテラシー教育、交通安全教育、防災教育により、自らの命と健康を大切にす知識と意識を育む。</p> <p>④組織的な日常の見守り、教育相談活動の充実や生活アンケート、Q-Uテストなどにより、生徒の思い、困り感をきめ細やかに把握し、寄り添う指導を充実させる。</p>	<p>①生徒指導主事、学年生徒指導担当を中心に情報共有を徹底し、組織的な生徒指導をすすめています。</p> <p>②学級委員や班長などクラスのリーダーを中心にした学年学級集団づくりに取組んでいます。生徒会が学校のリーダーとして学校全体に発信できるように、組織の見直しを進めます。</p> <p>③自分の命と安全を、自分で守る力の育成を進めています。</p> <p>・情報リテラシー講演会 6/20 ・薬物乱用防止教室(3年) 7/4 ・非行防止教室(1・2年) 7/7 ・自転車交通安全教室(1年) 11/2 ・性教育 1年10/24 3年10/26 ・デートDV学習 2年 ・避難訓練 6/24 10/31 3/2</p> <p>④日ごろの見守りに加えて、生活アンケート(毎学期)、QUテスト(年2回)把握や教育相談期間を設けて、きめ細かな支援を心がけています。打合せ(毎朝)、生指部会(毎週)やケース会議(随時)等で生徒の状況を共有しています。</p>

<p>豊かな心と健やかな体を育む教育の充実</p>		<p>(5)道徳教育の充実</p> <p>(6)健やかな体と心を育む教育</p>	<p>⑤いじめ・不登校・虐待に対する教職員の意識と指導力を高め、未然防止と早期発見、的確な初期対応に組織的に取り組み、生徒を全力で支援、問題を解決する。</p> <p>⑥配慮と支援が必要な生徒についてのアセスメントと的確な外部機関連携で、生徒の安全を守る。</p> <p>①教科書の読み物教材を中心に、問題解決的な学習や体験的な学習を適切に取り入れた道徳の授業及び、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度を育成する。</p> <p>①体力向上や食育、睡眠学習、スマホ依存、命と性に関する教育など生徒の実態を踏まえた学習の機会を設け、啓発に取組み生徒の体と心を育てる。また、家庭の意識啓発をすすめる。</p> <p>②コロナウイルス感染症と感染予防の正しい知識を身に着け実践するとともに、感染者や医療従事者などエッセンシャルワーカーに対して、偏見や差別なく適切に行動できる力を育む。</p> <p>◆学校教育自己診断などのアンケート結果や不登校やいじめ発生件数等生徒の生活の改善</p>	<p>⑤「いじめ防止基本方針」「いじめ防止マニュアル」「不登校対応ガイド」を年度初めと2学期途中で確認し、的確で組織的な初期対応を心がけています。いじめは、どの学級、どの学校でも起こりうるという認識で、いじめを見逃さずに解決していく取組みを進めます。</p> <p>⑥不登校生徒に関わる不登校支援員、スクールカウンセラーとの連携に加え、家庭支援が必要な生徒に関するスクールソーシャルワーカーとのケース会議を持ちました。家庭状況によっては、子ども家庭センター、子どもの育ち見守りセンター(とな)と連携して見守り支援を継続しています。</p> <p>①教科書の読み物教材を基本に、さまざまなテーマ、教材を使った道徳の授業にローテーション形式で取り組んでいます。それぞれの授業の振り返りからみとる評価も取り入れています。</p> <p>①生徒指導に関わる取組み(4)③、保健体育、家庭科の授業、保健だより、食育だよりと使った学習など、さまざまな場面で生徒の体力向上や健康増進に対する意識の育成を図りました。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症の予防の取組みが定着しました。今後は、状況に応じてマスクの着用や密を避ける行動ができる力を育てる必要があります。</p> <p>◆いじめはどんな理由があってもしてはいけないと思 98.4(98.8)</p> <p>◆命の大切さや、人権について学んだり考えたりすることは大切だ 98.7(99.5)</p> <p>◆先生は、困っている時にいつでも相談に乗ってくれる 97.0(97.5)</p> <p>◆先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う 96.5 ※</p> <p>◇子どもと食事や栄養、運動など健康的な生活習慣について話す 77.2</p> <p>◆不登校傾向の生徒が増えていることが、学校の大きな課題です。</p>
<p>教職員の資質と指導力の向上</p>	<p>・研修 ・学校評価</p>	<p>(7)教職員研修の充実</p>	<p>①サービスや人権教育に関わる研修、セルフチェックなどにより、生徒に範を示す立場にある教育公務員であることを常に自覚して行動する資質を涵養する。</p> <p>②学力向上担当を中心に、校内研修・学年、教科、ミニグループの研究授業・教科会議での授業プラン研究討議などに組織的に取り組み、「主体的・対話で、深い学び」の授業力を身に着ける。</p> <p>③効果的なICTの活用研修と環境整備を進め、効果的な授業改善や業務改善をすすめます。</p> <p>④生徒指導主事を中心に生徒指導の実践や学級づくりなど課題に則した生徒指導研修に取組み個々の教員の指導力の向上を図る。</p> <p>⑤大人教や府外教が主催する研究会への参加や、人権課題に関わる校内研修、社会問題に関する情報共有を推進し、教職員が確かな人権意識、人権に関する知識と指導力を身に付ける。</p> <p>⑥ローテーション道徳を活用した道徳の指導力の向上と評価の充実・改善に取り組む。</p> <p>⑦学校教育目標の達成に向け、諸調査のデータや生徒の実態を踏まえたPDCAサイクルを働かせ、カリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>◆自己診断アンケートの肯定的回答率の改善(教員・生徒・保護者)</p> <p>◆研究授業・校内研修の活性化</p>	<p>①他校で起きた問題を教訓化するなど、「信頼される教職員であり続けるために」必要な意識、言動について考える機会を持ちました。人権感覚を身につける研修も、その一環です。</p> <p>②授業力向上に向けて、教科、学年、グループでの研究授業、研修に取組みました。11月には山下敦子先生に指導助言をお願いして3年の上屋敷先生の公開授業研修を実施しました。また、小中一貫校区研究授業(中宮小)・教科交流を行いました。</p> <p>③2学期から各教室に液晶テレビを設置し、タブレット活用授業を推進しています。会議のペーパーレス化も定着しました。</p> <p>④生徒指導やいじめ、不登校に対する取組みについて、基本的な動きを確認したことで、組織的な対応が円滑になりました。指導力育成のための研修は今後の課題です。</p> <p>⑤人権課題に関わる校内研修、職員室内に図書コーナーを設ける等の人権意識や指導力の向上を目指した取組みをしました。人権教育部担当者などが研修に参加して、発表したり学習したりした学びを共有することが課題です。</p> <p>⑥学年の教員で取り組む「ローテーション道徳」、道徳ノートを活用した評価、相互授業参観に取組み、授業力向上を図っています。2月16日には、1年生全クラスで研究授業をしました。</p> <p>⑦今年度の取組みについての検証・総括を踏まえ、教育目標と学校全体像を可視化した「学校グランドデザイン」を作成しています。3月中にカリキュラム作成に取り掛かります。</p> <p>◆授業力や生徒指導力などスキルアップに積極的に取り組んでいる 75.1(教員)</p> <p>◆今年度のおもな校内職員研修</p> <p>・「効果的な発問を設定した授業づくり」 山下敦子先生 6/29</p> <p>・「思考力、判断力、表現力等の系統的な育成」 山下敦子先生 11/9</p> <p>・「学級集団の発達と学級経営」 水野治久先生 8/1</p> <p>・「非認知能力を学校で伸ばすために」 中山芳一先生 8/1</p> <p>・「部落問題学習」 中井和真さん 11/30</p> <p>・LGBTQ(性多様性)について 井上鈴佳さん 1/27</p> <p>・「通常学級における支援が必要な生徒を包む学級づくり」 松久真美先生1/30</p>
<p>学びのセーフティネットの構築</p>	<p>・教育課程 ・情報提供 ・保護者連携</p>	<p>(8)小中連携の充実</p> <p>(9)危機管理</p> <p>(10)家庭・地域との連携の推進・充実</p>	<p>①校区小中学校で育てる児童・生徒像を共有し、義務教育9年間の学びを見据えて系統的な学力向上・生徒指導・キャリア教育など校区一貫教育を推進する。</p> <p>②推進委員会、推進部会、生徒指導部会、事務部会、教科部会、支援教育部会で校区小中学校の教員の顔が見える交流、情報共有を実現する。</p> <p>①新型コロナウイルス感染症感染防止の組織的取組みで、生徒の命と安全を守るとともに、新型コロナウイルスについて正しく学び、差別や偏見なく、「コロナ禍」と向き合う力を育てる。</p> <p>②防災教育や、メディアリテラシー教育を充実させ、生徒の「自分を守る力」を育むとともに、地域の一員として小学生や地域の災害弱者を守れる生徒を育てる。</p> <p>①これからの学校の在り方と地域連携の構築に向けて、PTA、地域教育協議会やコミュニティなどの地域団体との情報交換、取組み参画の在り方を考え、地域の学校としての役割を果たす。</p> <p>②日常の教育活動について学校便りや学年通信、保健だよりなどの発行物、HP(ブログ)などの小まめな情報発信を進めるとともに、新学習指導要領と評価、コロナ対策や働き方改革をなど新しい学校の取組みについてもわかりやすい情報発信に努め、理解、協力を促進する。</p> <p>◆学校教育自己診断アンケートの肯定的評価。</p> <p>◆小中校区一貫の取組みの充実。</p> <p>◆学校だより、ホームページ等の充実</p>	<p>①校区3小学校とめざす子ども像「自ら考え行動し、多様性のある社会の中で、共生できる子ども」を共有して、校区合同研修、校区研究授業(中宮小 11/18)を開催しました。</p> <p>・「カリキュラム・マネジメントの意義とその充実に向けて」 田村知子先生 7/25</p> <p>②推進委員会、推進部会での課題分析を踏まえて、生徒指導・事務・教科・支援教育の各部会を開催し、子どもたちの状況や各校の状況を踏まえた取組みについて交流、検討しました。</p> <p>①長引く対応を通して、生徒たちは新型コロナウイルスの感染予防のための行動様式や感染した人への対応など『「コロナ禍」と向き合う力」を身につけることができている。』</p> <p>②自らを守る知識は一定育てることができたようですが、地域の一員としての自覚を育む機会は作れていません。今後、校区や地域と取組むべき課題です。</p> <p>①地域教育協議会とPTAの共催による「中宮中フェスタ」が再開されました。地域の子どもの育てる地域の取組みに、学校がどのような形で参画していけるかが課題です。</p> <p>②保護者、地域への学校の見える化を意識して、ホームページ(ブログ)、学校だより、保健だよりや学年通信、学級通信などの発信をすすめています。</p> <p>学校が取り組んでいる「これからの社会を生き抜くために求められる力を育む教育」「教職員の働き方改革」「これからの部活動あり方」などについてもていねいな説明をし、理解をいただくことが必要です。</p> <p>◇学校は、学級・学年通信や学校だより、ホームページ(ブログ)などを通じて、学校の取組みや子どもの様子を積極的に発信している 91.0(89.6)</p> <p>◇学校教育自己診断アンケート保護者回答率 48.5(55.8)</p>

4. 次年度に向けて

項目	内容	○改善方策
学習指導・生徒指導・ 教育課程・ 研修・教育目標	中宮中の生徒たちの未来のために、教育目標「自分と社会を結び付けて考え、行動できる力を育成する」を本気で達成しなければなりません。そのためには、各教科の学習指導はもちろん、総合的な学習、特別な教科道徳、特別活や生徒会活動や生徒指導など学校の教育活動全体の取組みを、目標に照らして検証する必要があります。同時に教職員が生き生きと働ける学校を実現することで、教職員が心一つにしてこれからの中宮中学校をつくります。	①中宮中の教育グランドデザインをもとに、各教科、分掌等の取組、指導の内容を再検証し、「ねらい」や「期待する効果」を明確にしたうえでPDCAサイクルを生かしてより効果的なものに改革します。 ②「教師が教える授業」から「生徒が学ぶ授業」への転換をさらに進めます。そのために学力向上部を中心に教科部会とミニグループでの授業研究の取組みを推進するとともに、明らかになった課題に則した研修に計画的に取り組めます。
支援教育・ 人権教育	来年度から、従来の支援学級に加えて、校内通級指導教室が設置され、生徒の障害の状況を踏まえた個に応じた支援の充実が図られることになりました。通常の学級でも、学習障害、発達障害などの障害に対する正しい理解を育てるとともに、障害の有無にかかわらず誰もがのびのびと学び合える教室を実現する必要があります。	①支援学級での支援を通常学級での取組みにつなげ、「ともに学びともに育つ教育」を推進します。 ②通級指導教室での支援について、教職員研修で共有し、教室環境と指導のユニバーサルデザイン化を図るとともにインクルーシヴ教育の推進に取り組めます。 ③学級づくりの実践研修に取り組めます。
生徒指導・ 人権教育	コロナ禍の影響もあり、不登校生徒の増加が、ここ数年の大きな課題です。また、SNSが関係する「いじめ」事案の発生が増加傾向にあり、問題の防止、早期発見・早期解決が求められる状況にあります。	①不登校生徒の支援体制を整え、保護者連携や関係機関との協力を進め、不登校の解消を図ります。 ②メディアリテラシー教育をすすめ、家庭の協力を得ながら、問題の防止、早期発見・解決をすすめます。 ③中宮中いじめ防止方針の内容を、生徒・保護者にわかりやすく伝え、「いじめを許さない」学校ぐるみの取組みを進めます。 ④生徒指導においても、問題行動への事後指導だけでなく、自他を大切に、自分たちでクラスや学校をつくる意識を育む生徒指導(開発的生徒指導)に取組み、すべての生徒が、「学校が楽しい」と思える学校、学級づくりを生徒たちと共に、進めます。
情報提供・保護 者連携・組 織運	子どもたちの健やかな育ちには、学校と保護者、地域の連携が不可欠です。学校の取組みを生徒や保護者、地域にもわかりやすく発信し、協働する機会を設けることで、教職員と生徒、保護者、地域が協働して育つ「地域の学校」の実現をめざします。部活動指導の改革など、教職員の働き方改革への理解も求めながら、これからの中宮中校区の保護者・地域・学校の協働をすすめます。	①学校だよりやホームページを通じた情報発信の体制を整え、充実を図るとともに、保護者や地域も一緒に子どもたちを育てる動きを作ります。 ②教職員が子どもたちと向き合う時間を確保するために、教職員が元気に、いきいきと働ける学校づくり、働き方の改革をすすめます。家庭との電話対応や部活動時間の見直し、地域連携などの見直しをすすめます。

以上の内容で、令和4年度の中宮中学校の取組みに関わる学校評価を実施いたしましたので、ご報告いたします。
 この学校評価を、令和5年度の取組みに反映させ、本校教育を充実させてまいります。

枚方市立中宮中学校 校長 町田弘明